

観光ガイド実証実験の報告

浅草ユビキタス観光ガイド実証実験

1. 目的

観光客の満足度向上に重要な役割を担う観光情報提供のあり方を調査するため、ユビキタス・ネットワーク技術を利用することにより、観光客(特に外国人観光客)のニーズに合わせた情報提供に関する実証実験を実施し、実用化に向けた課題の抽出と実用可能性の検討を行った。

2. 概要

(1) 実験期間

平成17年4月18日～平成17年5月31日

(2) 実験対象エリア

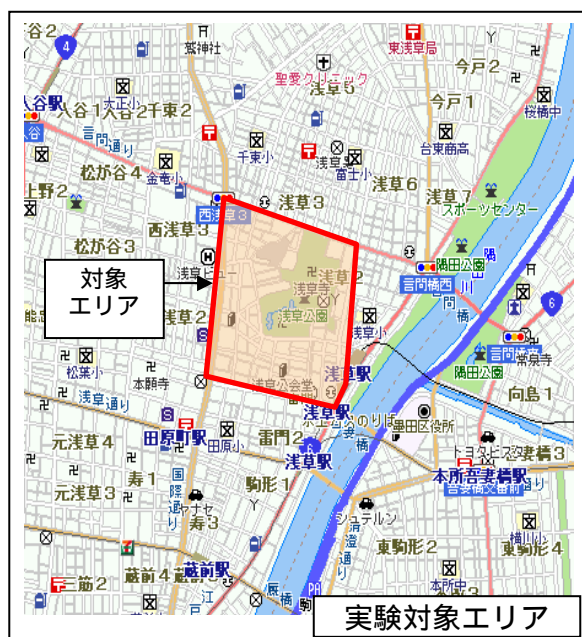
東京都台東区浅草地区

(3) 実験方法

浅草地区の浅草寺、史跡、商店街等100箇所以上にICタグ、赤外線マーカを設置し、携帯情報端末「ユビキタス・コミュニケーター」により、その場所に応じた観光情報を提供する実験を実施。

実験参加者は、浅草地区に宿泊した一般の観光客を対象とし、参加者に携帯端末を貸出し、浅草地区で自由にユビキタス観光ガイドを体験してもらった上で、アンケートによる機器の使用感等について調査。

なお、携帯端末は、日、英、中、韓の4カ国語に対応し、文字・画像の表示及び合成音声による読み上げ機能を有し、画面上に表示された地図により現在の位置を確認できる機能を搭載し、さらに、実験参加者に提供した情報を記録し、観光客の行程を分析できる機能を搭載して実施。



3. 実験結果

ユビキタス観光ガイドにおいて、場所に応じた情報を小型の携帯端末で簡単に得ることができるのは、日本人観光客だけでなく外国人観光客にも高く評価された。

また、祭事等の動画については、その場では見ることもできない様子を感じることができ等、観光地の再訪の誘発につながることも明らかとなった。

今後の課題としては主に以下のとおり。

< ICタグの認識性 >

ICタグを設置している場所のわかりやすさは、設置する場所によって大きく異なった。より認識されやすい場所に設置する必要がある。

< 使用感 >

コンテンツの量、文字の大きさ、携帯端末の操作のしやすさについては適切であった。

< 使用可能な時間 >

使用中にバッテリーが切れる等、使用可能な時間に不満を持つ意見があった。持続時間を長くする必要がある。

■ 4月12日(月)のオープニングセレモニー
・北側国土交通大臣が出席



坂村委員長によるシステムの説明



システムを体験する北側国土交通大臣

実証実験の状況

■ 外国人観光客の方による体験

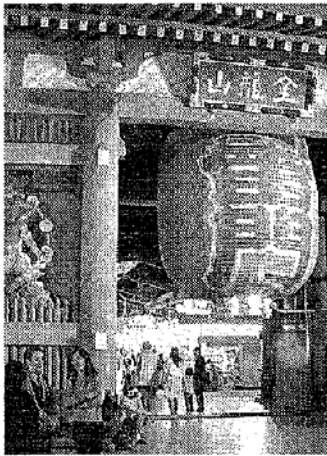


店頭に赤外線マーカーを設置



雷門や五重塔にＩＣチップ

浅草案内 で 端末



約100カ所にＩＣチップ
や無線マーカーを設置

実験は五月末までの約一カ月半。地元の観光業関係者などで行う観光ガイドシステム推進委員会と国土交通省、ＩＣ東大教授が協力して実

高機能・携帯型の情報通信端末を活用した観光案内サービスの実証実験が、東京・浅草で十二日にスタートする。雷門や五重塔といった観光名所や土産物店など約100カ所にＩＣチップや無線マーカーを設置。端末を持って近づけば、動画や音声を使って名所の詳細情報や店舗紹介などが受けられる。初めてでも気軽に観光できる環境を整え、外国人も含めた集客拡大につなげる考え。

国交省や地元など実験 外国人客掘り起こし

端末は数十台程度用意し、浅草周辺のホテルの宿泊客などを対象に貸し出す。外国人観光客向けに、英語、中国語、韓国語にも対応できるようにする方針だ。

今秋には東京都が中心となって上野公園周辺で同様の実証実験を開始。博物館や美術館の情報紹介や全球測位システム（GPS）を使った位置表示、上野動物園での電子マネーサービスなどを手掛ける。

浅草観音堂や仲見世の目市川団十郎の像、数多くの有名芸能人の手形が飾られた「スターの広場」など大衆芸能関係の観光名所にもＩＣチップを設置。名所の情報をはじめ、浅草の歴史や祭りの風景、ゆかりの著名人の映像なども端末画面で紹介する。

浅草観音堂や仲見世の目市川団十郎の像、数多くの有名芸能人の手形が飾られた「スターの広場」など大衆芸能関係の観光名所にもＩＣチップを設置。名所の情報をはじめ、浅草の歴史や祭りの風景、ゆかりの著名人の映像なども端末画面で紹介する。



浅草地区の主な観光名所

に、英語、中国語、韓国語にも対応できるようにする方針だ。

今秋には東京都が中心となって上野公園周辺で同様の実証実験を開始。博物館や美術館の情報紹介や全球測位システム（GPS）を使った位置表示、上野動物園での電子マネーサービスなどを手掛ける。

愛知万博長久手会場 ビジット・ジャパン・キャンペーン実証実験

1. 目的

観光客の満足度向上に重要な役割を担う観光情報提供のあり方を調査するため、ユビキタス・ネットワーク技術を利用することにより、愛・地球博会場を訪れた観光客、特に外国人観光客のニーズに合わせた情報提供に関する実証実験を実施し、実用化に向けた課題の抽出と実用可能性の検討を行った。

2. 概要

(1) 実験期間

平成17年年8月1日～平成17年9月13日

(2) 実験対象エリア

愛・地球博長久手会場のグローバルコモン3及びその周辺のグローバルループ上

(3) 実験方法

携帯情報端末「ユビキタス・コミュニケーター」を用いて、実験対象エリアに無線マーカ、ICタグを約50箇所設置し、その場所に応じた観光情報、最寄りのトイレや飲食店の案内情報、現在地から目的地までのナビゲーション情報の提供を実施。

インターネットのホームページやリーフレットにより参加者を募集し、応募のあった一般の愛・地球博における来場者に対し携帯情報端末を貸し出し、ユビキタス観光ガイドを体験してもらった上で、アンケートにより使用感等についての調査を実施。

なお、携帯端末は、日、英、仏、スペイン語、中、韓の6カ国語に対応し、文字・画像の表示及び合成音声による読み上げ機能を搭載。

3. 実験結果

日本人、外国人参加者ともに好評であり、広い範囲に多くの観光スポットが存在するようなエリアを観光客が、自由に歩き回るような観光形態において有用であることが確認された。

また、多言語に対応したことから、様々な外国人からも受け入れられるシステムであることが分かり、津和野、浅草での実験において課題とされていた使用可能な時間に対し、バッテリー等を改良し、2時間以上使用できるようにした携帯端末を使用したところ、使用可能時間に対しては特段不満もなく十分であると認められた。



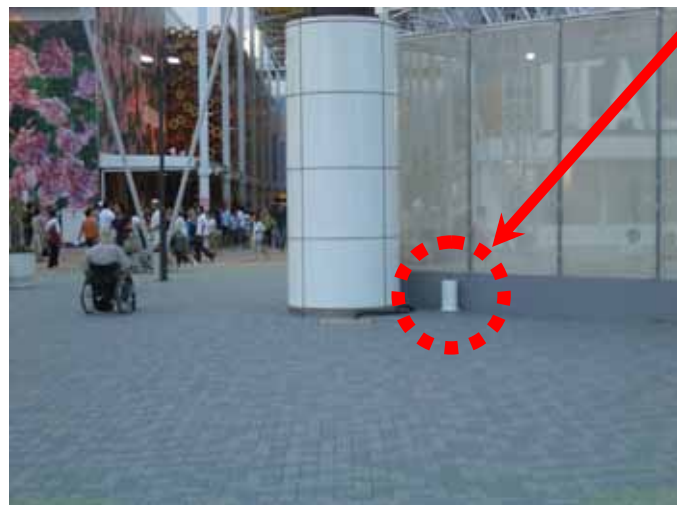
愛・地球博長久手会場 概略図

実験対象エリア

機器の設置状況



無線マーカ



シールタグ